

BUSINESS

リーダーになる!

実践する上司学。  
嶋津良智による、よきリーダー、上司になるための必読コラム。



嶋津良智 ■リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新会社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。

第56回 受け売りは役に立たない

どんな知識や手法でも、いったん自分でしっかりと理解し、状況に置き換えて自分の言葉で説明できなければ、役立つスキルや知識とは言えません。

「コミュニケーションの取り方なんて、個々のパーソナリティーや経験のなかで培われたものでしょう」と考えている人も多いかもしれませんが、コミュニケーションの知識や技術をきちんと勉強することも、ときには必要です。

確かに、改めてコミュニケーションについて学ばなくとも、部下を含め、周囲の人とどううまくコミュニケーションをとっている人はいまいます。しかし、すべて

の上司がそのような素晴らしいスキルを身につけているとは、とても考えられません。

また、コミュニケーションに問題を感じていない上司であっても、新しい手法を学ぶことで、よりよい関係を築けることもあるはずですよ。

例えば、コーチングやカウンセリングの知識を身につければ、部下との関係の作り方、質問の仕方、表情や行動から読み取る情報

などが変わってきます。

上司になれば、好きな人、嫌いな人、得意な人、苦手な人など、さまざまな部下と同じように接する必要に迫られます。そのためには、勉強をして、確固たる知識・スキルを身につけておくことも大切でしょう。

自分の言葉で説明 深く理解した証

ただし、本、雑誌、DVD、セミナー、講演会などで学んだ知識をきちんとそしやくする(かみくだく)ことを忘れないでください。「講師の先生が言っていたから、コーチングという手法を試してみるか」とい

う程度では、発揮されません。部下にしてみれば、「ちょっと講演会へ行ったからうて、すぐに受け売りするのはやめてほしいよ」とシラけてしまうはずです。

どんな知識や手法でも、いったんは自分の中でしっかりとそしやくして、自分なりに普段の現場に置き換えて、自分の言葉で説明できるようにならないければなりません。うわべだけを学んで、適当に使うだけが役に立ちません。

わたしはいつも言っているのですが、「自分の言葉で説明できないのは、深く理解していない証拠」です。さまざまな知識、スキルを生かすためにも、まずはあなた自身が、きっちりと理解し、そしやくすることが大事なのです。それは会社から与えられる戦略・方針についても同様です。しっかりと自分でよく理解して、自分の言葉で部下に説明できるようにしてみてください。

『上司のルール』より転載

